

下水道館

園長 山中 文

昨年参観させていただいた園で、こんなお話を伺いました。

ある時、子どもたちが散歩の途中でマンホールを見つけ、それが何なのか、その下はどうなっているのかと興味を持ったそうです。先生が「どうなってるんだろうね」とあえて不思議そうに言うと、子どもたちは、次の散歩の時に近くの工事現場の方に相談したそうです。すると、その下には穴が開いているけど勝手には開けられない、と教えてもらえたとか。

マンホールの下はどうなっているのか、絵を描いたり話し合ったりして、どんどん子どもたちの想像がふくらみます。階段があるんじゃないかとか、迷路になっているとか。そして、なんとかその下を見たい子どもたちは調べを続け、区役所に問い合わせたそうです。区役所では、下水道館に見に行ったらどうかと提案してもらえ、みなで見に行くことに。

下水道館では、子どもたちが待ちに待った下水道管の下をのぞくことができ、水再生の様子や下水道管の役割についても知ることもできたようです。下水道館の中ははじめて行く幼児がすぐに興味を持てるものではないはずですが、自ら関心を持ってたどりついた子どもたちは、目をキラキラさせて見学し、係の方にどんどん質問したとのことでした。

もちろん、その園の先生方は、「どうなってるんだろうね」という言葉だけで放っておいたわけではありません。マンホールの下を想像する話し合いの場を設けたり、「どんなになっていると思う」と問いかけて、さりげなく絵を描くように導いたり、下水道館に行く計画を立てたりと、調べることを一緒になって支援していらっしゃいました。

幼児期に仲間との遊びの中で培われる、「どうなっているんだろう」と不思議に思っ集中する力や「もっとやりたい」という意欲などの非認知能力は、将来に結び付くものとして大きくクローズアップされています。幼稚園では、子どもたちが共有する遊びがそのような経験になっているかどうか、教師にとってはいつも振り返る事項でもあります。

日々の生活では、子どもたちの疑問や興味にいつもつきあうわけにはいきません。でも、ついやってしまいがちな「それはこうなっているんだよ」「こうするんだよ」という先回りの説明は、一度引っ込めてみてもいいかもしれませんね。「どうなっているんだろう」をつなげていくには、あれこれ考えることを子どもと一緒に楽しんでみたいものです。

